
神様の隠居生活

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の隠居生活

【Nコード】

N0970BA

【作者名】

零

【あらすじ】

とある世界の神様が世界を見守る仕事に飽きて、仕事を新人の神様に任せて、他の世界へ旅に出る………という話です。

ノリと勢いだけで書いてるので、いろいろツッコミどころがあるかと思いますが、気にしたら負けです（笑）

それと、更新は基本とても遅めです。（本当に思い付きで書いてるので、続きを考えてないからですw）

もしかしたら最初は、一話書いてはやめ、一話書いてはやめを繰り返すかもしれませんが、気長に続きを待っていて下さい。

プロローグ（前書き）

1 / 5 追記：始めの内容では続きが書きにくいと思い、後半の設定をガラリと変えました^^；（転生する設定をなくして、神と魔王のそれぞれの会話を追加しました。）

プロローグ

「……………飽きた。もう世界を見守るのに飽きた！」

この世界を見守って早数千万年、そろそろ世界を見守るだけの仕事に飽きてきた……………

「よし！この世界は他の神にでも任せて、俺は他の世界にでも旅に出よう！」

うん、たとえ神でも息抜きは必要だと思うんだよね。

一応、俺は神様歴一億年以上の古参だし、そろそろ新人の神に席を譲るのも悪く無いと思うんだ。

そうと決まれば、どの世界に行こうか。やっぱり魔法はあった方が楽しいと思うんだよね。

他にも勇者や魔王なんかも欲しい。あと、世界観は中世風にしよう。さて、これに該当する世界は、っと……………

「……………お、あったあった。それでは、レッツゴー！」

さて、俺が来た世界は唯一の大陸、“サンロード”大陸がある“フレムミスト”という世界だ。ここでは魔法が普通に存在し、精霊や魔物、勇者や魔王などもいる世界。

まあ、とある世界風に言えば“ファンタジーな世界”だ。

ちなみに、神が下界に降りることは普通はないから、こっちの世界に余計な混乱を招かないために、こちらの神に正体がばれないようにお邪魔（侵入）した。

真っ白な空間に若い女性と年老いた老人がいた。

「何者かがこちらの世界へ来たようです…どういたしましょうか？」

「うむ、それはワシも気づいた。じゃが、どうせまた人間が魔族や隣国との戦争のために勇者でも召喚したのじゃろう。またどこかの神に神託を受けにくるじゃろうから、他の神にそう伝えておけ」

「かしこまりました。“サンロード”様」

時を同じくして、薄暗い部屋に執事風の男と全身を黒いローブに包まれた性別不明のものが話をしていた。

「魔王様、この世界に何者かがやって来たようです」

「そうか、どうせまたどこかの国で召喚された勇者だろう。人間め、また懲りずにやってくるか！返り討ちにしてくれる……！」

どろりやら森に出たようだ。とりあえず森を出て、どこか適当な町でも目指そう！

俺は道を聞く為に、気配を探り一番近くにいる人の集団のところへと向かった。

プロローグ（後書き）

また、内容が変化していたらすみません<>
それと、誤字？脱字などの指摘もよろしくお願いします。

第1話 少女との出会い（前書き）

やっと続きが書けました！

やっぱりノリで作ったので、後で修正が入るかもしれません……

それと、さっそくお気に入りに入れてくださった方々、ありがとうございます！

第1話 少女との出会い

只今俺は、武装した兵士達に絶賛囲まれ中です。何でこんな事に…

……

俺は、後ろで服の裾を掴んでいる少女に意識を向けながら現実逃避をしていた……

俺は町がどこにあるかを聞くために、たくさんの人の気配がする方向へ向かっていた。

え？なんで気配なんて分かるのかって？ そりゃあ神様ですもの！

まあ、それはいいとして………そうして俺は人の気配がたくさんあったところへ行っていたんだ。そしたら、気配のする方向の茂みから、突然14歳くらいの少女が出てきて、その後から、いかにも兵士ですと言わんばかりの格好の男が5人出てきた。

「おい、そこのお前！後ろにいるその小娘を渡せ！」

兵士の中で一番強そうな奴が言ってきた。後ろの少女を見ると首を横にブンブン振っていた。

良く見てみると可愛らしい少女だった。優しい緑色の髪を腰まで伸ばし、同じく緑の瞳は涙で濡れていて、整った顔はまだ幼さを残すが、そこがまた保護欲をそそられるようだった。

「ええ。構わないですよ」

そういった瞬間後ろの少女がビクンとなり、俺を涙目で見上げてきた。正直俺は、人間がどうなるうが構わなかったので、一番楽そうな手段を取った。

「隊長！よく見て下さい。こっちの男もなかなか高く売れそうですよ！」

「と、言う訳だ。お前にも来てもらおう事になった。」

どつちやら俺も標的になったようだ。

「断る、と言ったら？」

「お前に拒否権は無い」

……なら仕方ない。

俺は手を横に一振りし、風で目の前の男達を胴体から上下に真っ二つに切り裂いた。

男達は一瞬何をされたか分かっていなかったが、胴体が切れている事に気づいた時には事切れていた。

俺は、後ろでコトを見て啞然としていた少女を置いて先に行こうとした。

「待って下さいー!!」

……少女が何か言ってきたようだが、正直めんどくさかったので無視してそのまま歩いて行こうとした。

「お願いです、待って下さいー!!……町まで案内しますから待って下さいー!!」

俺は足を止め、後ろを振り返った。

「分かった。待ってあげるよ」

俺がそう言つと少女は安堵の息を漏らしながら、

「さっきは助けて頂きありがとうございました。一瞬助けてくれな
いかと思いましたが、それでも結果的に助けて頂いたことには変わ
り無いです。私はリアと言います。以後よろしく願います。」

“以後”と言つとところを妙に強調しながらリアは言った。

「町に着いたらそこで別れるつもりなんだけど……」

「そんなこと言わないで下さい！私が住んでいた村は戦争に巻き込
まれ、両親も私を逃がす為に兵士に殺されてしまったんです！私に
はもう帰る場所が無いんです。お願いします……」

少女は泣きながらそう言った。……流石に可哀想になってきた。

「まあ、それなら仕方がないか。これからよろしくな、リア」

そう言つと、リアは見る見るうちに笑顔になり「はい!！」と言つた。

「それで、あなたのお名前は？」

「俺の名前は……アレンだ。」

もともと俺には名前は無かったので即興でつくつた。

「アレン……アレンさんですか。これからよろしくお願いしますね！アレンさん！」

うっ！今、リアの笑顔を見て心拍数が上がった。……今のは何だっただらう？

「あ、ああ。……それよりも、ここから一番近い町はどこなんだ？」

これ以上リアの顔を見るのが恥ずかしくなり、視線をリアから外しながら話題を行き先の話に変えた。

「ここから一番近い町ならハーフミルですね。この道を真っ直ぐ行ったら、だいたい20分程で着くと思います」

こうしてアレンとリアはハーフミルへと向かった。

「いったい何者だったんだあの男は……」

アレン達が去った後に、遅れて仲間を追ってきた兵士がそっすっぶぐやいた。

第1話 少女との出会い（後書き）

なんかいきなり主人公の性格が冷たいイメージになってしまいましたね^^;

ですが、主人公は神で人の考え方が分からない部分もあるだけなので一応良心はあります。それと、めんどくさがりで気分屋でもあるので、ついフラグを折ろうとしてしまう事もありますw

思考の方はこれから人間らしくしていくつもりなので、暖かく見守ってあげてください。

それから人の名前も町の名前も適当に付けました（町の名前は自作w特に意味は無し）。

誤字？脱字がありましたらご報告お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0970ba/>

神様の隠居生活

2012年1月6日12時46分発行